

山岳ぐんま

雪上技術講習会に参加して

前橋山岳会 大家 千枝子

今年度第一回目の講習会が谷川岳マチガ沢で行われた。私が所属する前橋山岳会からは三名が中級に参加。以下、講習会について報告する。

期日 平成十六年四月十八日(日)

会場 谷川岳マチガ沢

天候 晴れ

講習内容

◇中級 雪上での確保スタンディングアックスピレー、急雪壁での支点と確保、スノーピケット、スノーフレックによるアンカーの作成、クレバスからの脱出、負傷者の搬送方法、その他。

◇初級・初心者 雪上歩行、ア

イゼン・ピッケルワークの基本、滑落停止・確保の技術、滑落停止、雪上での確保スタンディングアックスピレー、その他。

参加者 28名(初級13名、中級15名)

所属(太田、大間々、桐生、登高会、前橋、松井田、ミヤマ、一般)

講師 ◇中級 町田幸男氏

◇初級 久保田一美氏

岳連主催の講習会では、講師による説明とデモンストレーションの後、習ったことをすぐに実践する。そしてその上で疑問に思っ

たことなどを質問できる環境が整っている。本格的な山の経験がまだ浅い私にとって、このような講習会はとても有り難い。

私が参加した中級の講師は、町田幸男さん。ポイントをしぼった解説と、きめ細かい指導をたまわり、技術や方法のひとつひとつに理論が生きていることを知る。ピッケルの持ち方ひとつとっても、合理的でより現実に即した持ち方を学んだ。山の技術は目的が同じであつても方法やスタイルがいくつかがあつたりする。理にかなつた基本をしつかり学び、確実に身につけ、それを応用できるようになりたいと思う。

また、意識の持ち方について貴重なアドバイスをいただいた。雪山の基本技術である滑落停止・確保の技術というと、まず確実な初期制動の訓練をイメージしていた。

しかし、滑落を防ぐ第一手は慎重な歩行にあり、初期制動で転滑落しかかるのを止める以前に、歩行のあり方で転滑落を予防することが何よりも大切なのである。言われてみればごく当たり前のことなのだが、意外に見落としがちなのがポイントである。しかし、ここで意識をかけ違つてしまうと、迎える結果には天と地ほどの差がある。今後、雪山に入る際、常に肝に銘じたいアドバイスであつた。

雪上での支点のとり方では、スノーピケットやスノーフレックはもちろんのこと、木の枝を束にして支点にする方法や土嚢袋を使う方法などを学んだ。下山の際には、自力歩行ができない負傷者を想定した搬送を実際に行った。本を読むことで得られる知識もあるが、やはり現場で実践し、支点の強度を自分の体で確かめたり、緊急時の搬送を体験したりすれば、理解もより深まる。

最後に講師から、本来ひとつひとつのレクチャーにはもっと時間



負傷者の搬送



雪上での支点のとり方



がかかるもので、この日の内容はほんのさわりであること、そして何度も反復しなければ覚えられないというコメントをいただいた。山を始めて以来、たくさんの方の技術を学んできたが、なかなか覚えられないことを痛いほど実感している。身につかない原因はいくつか考えられるが、やはり技術の基本をきちんと理解し、繰り返し練習をすることが今の自分には絶対的に必要だと思う。日頃の山行に加え、今後もこのような講習会へ積極的に参加していきたい。

平成十六年度

群馬岳連救助隊編成

群馬岳連遭難対策部長 松 永 幸 雄

平成十六年度の救助隊は六人の新隊員が加わり、編成は以下のようになりました。

顧問 西山年秋 (沼田)

隊長 松永幸雄 (沼田)

副隊長 小暮文彦 (境)

書記 町田幸男 (太田)

書記 清水裕千 (むすび)

隊員

梁瀬佐市、清水福治、山田重之

以上の編成となりましたが、前

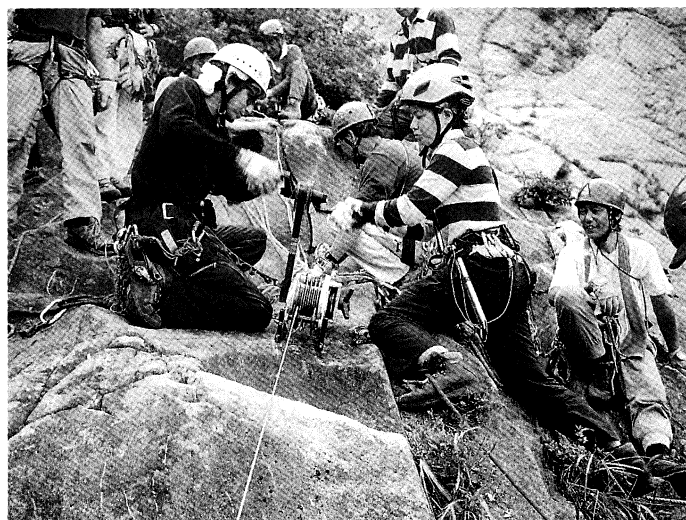
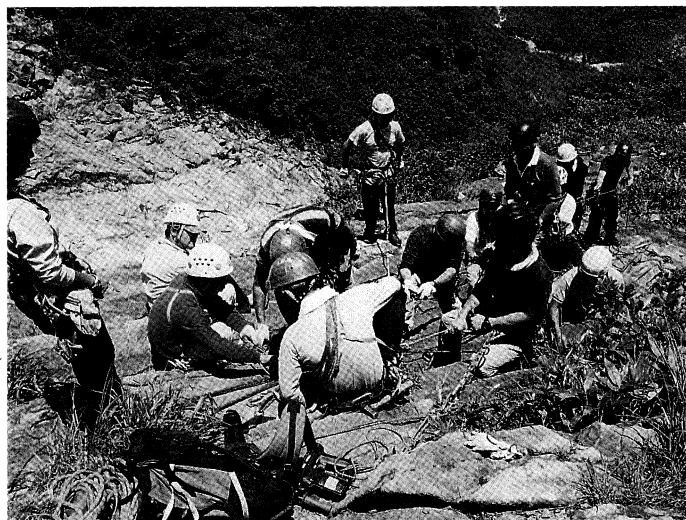
橋の伊藤君、ミヤマの中村、飯塚、小和田君、岩遊の沢田、堤君が今年度からの新隊員です。それぞれ自分から参加を申し込んでくれた意欲的な隊員で大いに期待しております。

新体制になって七年目の救助隊ですが、経験を積んだ隊員が自信を持って行動できるようになってきて、安心して任せられるようになり

ました。

今後は訓練を重ねる事により一層の救助技術の向上を図り、冬の滝沢第三スラブや衝立岩で自信を持って救助に当たれる救助隊にしていきたいと思っております。そのためにも隊員のより一層の山すべてに対する真剣な取り組みを期待します。

七月四日の谷川岳山開きに合わせたの第一回救助訓練、九月五日の第二回救助訓練は無事順調に終わりました。今後三月に訓練を実施します。



沢登り講習会開かれる

群馬岳連登山指導部 久保田一美

日時二〇〇四年八月二十九日

(目)、場所は湯の小屋沢川。講師は山岳渓流会岩遊より豊野則夫会長、沢田和久氏、堤宏康氏、霞博文氏、ヤマセミ倶楽部より竹内秀樹会長、岸智礼氏など六名。受講者は岳連関係から高体連二名、松井田山岳会一名、大間々山岳会一名、太田山岳会二名、一般一名。

岩遊関係から岩遊一名、岩遊予備軍とも言えそうな沢やの卵さん四名の計十二名。岳連指導部より吉田直人副委員長(境町山の会)、久保田一美(太田山岳会)の総勢二十名。

前夜、奈良俣ダムゲート前のよく整備された駐車場で幕営した。翌朝の空模様は一面雲に覆われていて今にも泣き出しそうだが、気温はそんなに低くなさそう。

六時三十分、集合場所の空き地へ車で五分程下る。すでに何人か集まっていた。白馬町から来た若い女の子もいて沢の人氣に驚かされる。受付、支度を整えそこから更に乗り合いで川に沿って五分程走ると手小屋沢と湯の小屋沢の出会いの手前に五台ほど駐車できるスペースがある。そこに駐車してフェンスの脇から踏み跡をたどって沢に入った。時折パラパラと降ったかと思うといつの間にか止んでしまうようなはつきりしない天

気のなか遊行がはじまった。ここから一三〇〇m位の距離にへつり、泳ぎ、シャワークライム、急流の徒渉など次から次へと出てきて非常に変化に富んでいる。

入渓してすぐやさしいへつりがあり、そこで「上の方に登り過ぎないように」、「水際にあるスタンスをよく見つけて」など丁寧な指導を受ける。浅瀬では、特に不安定な石に乘らないように、石に全体重をかけずに軽やかにと注意があつた。腰までの渡渉では、水の中をよく見るようにと言われていた。二度目のへつりは右岸で、水面から一五〇cm位の高さまでへつっていくと足元の岩が切れ落ちている。幅は五〇cm位だが少し高くなっている向こう側へ跨いで渡るのに木の枝が邪魔している。竹内さんが補助ロープを投げてくれた。皆へつる時には真剣な顔だが順番待ちをしている時に時々ドボンという音がする。音のする方を見ると、水面に出ている顔と出会ったりして楽しい。

二条一五mのヒロダイラ沢では二本のロープを張り、シャワークライミングの練習をした。何回も果敢にチャレンジする受講生もいて、楽しんでるのが伝わってくる。地図にはない瀬もいっぱい出てくる。その中の一つに、瀬の真

ん中に右から左の岩角へ向かつて強い水流があり、真つ直ぐ対岸へ泳いで渡れない。こういう時は、一旦左の岩角へ向かつて泳ぎ、その岩角を足で大きく蹴つて一気に対岸へ渡るといふ方法を教えてもらう。又、泳ぎに自信のない人は無理に泳がないでロープを投げてもらうようにとの豊野さんからの指示もあり、泳ぎの苦手な私は勿論迷わずロープを投げてもらった。二条一〇m右逆くの字の滝は、左岸をへつりながら滝の中ほどまで上がると一mほどの幅がある急

流が右側からなだれ落ちている。この急流を渡つて滑りやすいナメ床を三〜四m上がりきったところを左岸へ向かう。

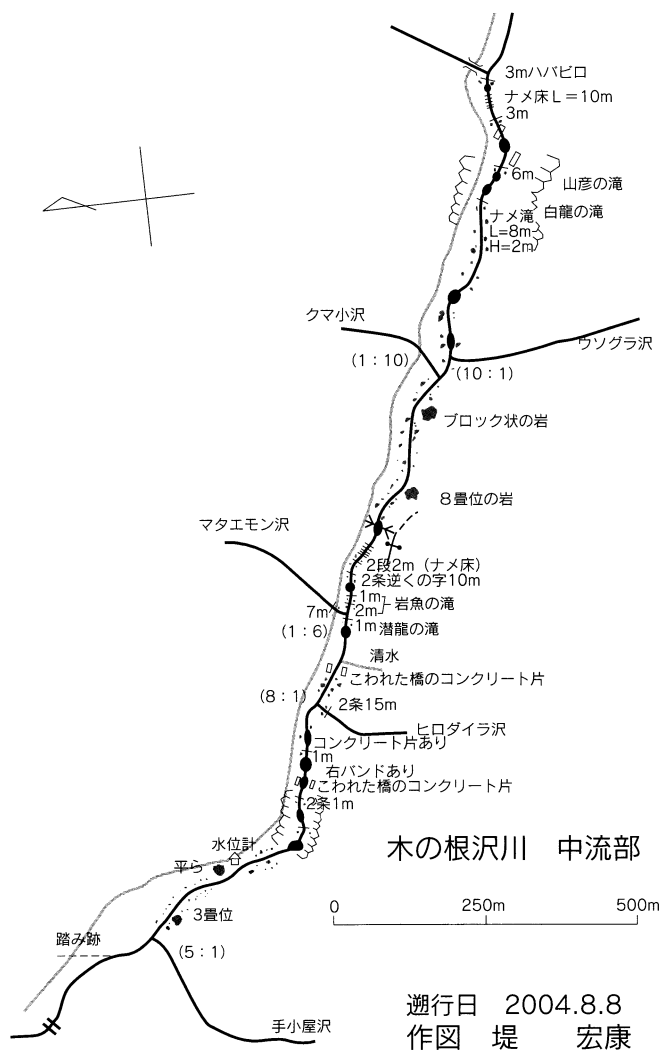
急流の先に豊野さんがいて、滝をまたいでナメ床側の岩に体を向けた途端ハーネスを掴んで補助をしてくれる。ナメ床にもロープがフィックスされ、上がりきった所から左岸に向けても張られた。これまでに出てきた何ヶ所かのへつりのフィックスもそうだが、非常に手際のいい講師陣の連係プレイは、さすが一年間に八ヶ月も沢に通う沢やさんだと思う。

湯の小屋沢川は広くなったり狭くなったり、水量もほどほどで、濃い緑と薄い緑のコントラストと木の葉を透けて届く光が水面でキラキラ光り美しい。昼食の時に焚き火をした。沢の魅力の一つは焚き火だ。焚き火を囲んでのおしゃべりは楽しい。時間を忘れてしまう。

「この先も楽しいよ」と豊野さんは言われたが、講習会はこので終了することになった。

この沢の最大の特徴は、沢の直ぐ上を道路が走っていて、直ぐに撤退できることだ。帰りは道路を歩いて車に戻り、また乗り合いで受付広場に戻った。

受講者の感想も楽しかったという方が多く、コンパクトに色々な内容を詰まったこの湯の小屋沢川を講習会場に選んだ講師陣の力量に敬意を表します。午後二時頃解散。



高校山岳部は正体不明？

群馬県高体連登山専門部

委員長 小林 達也

高体連登山行事予定

4/29	座学講習会
5/14～16	第39回県高校総体 (小野子山・子持山)
5/28～29	夏山指導者講習会
7/17	夏山合宿計画書 検討会
9/10～11	秋山指導者講習会
10/8～10	集中登山大会
2/10～12	冬山指導者講習会
3/25～28	リーダー冬季講習会

現在、県内の高校四十八校に山岳部があり、少子化や部活動離れの影響で部員減少の傾向が続いているものの、現在でも約四〇〇名の高校生が活動しています。

高校山岳部に所属していた経歴の持ち主は別として、高校の山岳部がどんな活動をしているのか、ほとんど知られていないでしょう。そこで、高校山岳部の平均的な一年を紹介しましょう。

三月末に尾瀬で行われているリーダー冬季講習会を終えて下界に戻ると、そこは既に桜の季節。そんな時差に戸惑いながら、いよいよ新たな一年の始まり、部員減少に悩まされている山岳部（登山部・アウトドアクラブ）にとって、部存続を賭けた正念場の春を迎えます。野球やサッカー、テニスにバスケットといった人気スポーツでは人集めに苦労することはないのですが、

3K（キツイ・キタナイ・キケン）の山岳部に入部しようなどと考える高校生



は、余程の常人、物好き、能天気か、さもなくば非常に知的、意識的に高い、覚醒した高校生なのです。どちらもまさに金の卵、それだけに発掘するのに一苦労も二苦労もあります。

四月中旬、部紹介・部編成の日、すでに「山の魅力」に取り憑かれてに二・三年生は練りに練った秘策で関心を引こうと懸命になります。ケーキに紅茶、焼き肉まで振る舞うところもあるようです。涙ぐましい努力なのです。さて、ようやく獲得した力モならぬ新入部員を容易く手放すまいと、まるで腫れ物にでも触るかの様に、とにかく楽しい雰囲気

を気に入ってもらおうと、花見に、校内合宿でのバーベキューに一発芸大会と、ここでも先輩のパワー全開。初めての山行でも、初っぱなから重いザックなど背負わせず、きついコースなど論外のこと。雨にでも崇まれば翌朝には「辞めます」の一言が待ち受けているのですから。



国体県予選の疲れもとれないまま迎える四月二十九日、座学講習会が伊勢崎工業高校で行われ、ドリームボックスが登山用品を「買わされる」新入部員でこった返すのがこの日です。部費の少ない山岳部は、共同装備すらなかなか買えないのが実情、個人装備までは予算がありません。それを無理矢理「買わせてしまふ」のが、「辞めさせない」ために、姑息ながらも不可欠なのです。



五月の連休、行楽ムードで浮き立つ世間に羨望の眼差しを送りつつ、山岳部員は（家族に恨まれつつ顧問も）

県高校総体の下見に入ります。

県高校総体は関東大会、全国大会の県予選を兼ねる最大の県大会で、子持山・小野子山、榛名山、赤城山の三山域を年ごとに順次、会場とし、二泊三日で行われます。昨年の参加総数は約四六〇名。参加校は事前研究書や計画書作り、トレーニングにテント設営の訓練、気象や救急法の勉強、ペーパーテスト対策と、やるべきことは多岐にわたり、慌ただしく日々を送ります。また、新入部員に課せられた初の試練と言える大会でもあり、ここを乗り切れば、新入部員もどうにか部員の一員、戦力となるようです。

六月、各校が谷川岳に、尾瀬にと山行を計画し、夏山合宿に向けて地力をつけてゆく時期です。一方、国体の強化指定選手たちは、

手たちは、関東ブロック予選通過に向けて、毎週のように強化合宿が組まれ、

沢登り講習会開かれる

群馬岳連登山指導部

久保田一美

日時二〇〇四年八月二十九日
(日)、場所は湯の小屋沢川。講師は山岳渓流会岩遊より豊野則夫会長、沢田和久氏、堤宏康氏、霞博文氏、ヤマセミ倶楽部より竹内秀樹会長、岸智礼氏など六名。受講者は岳連関係から高体連二名、松井田山岳会一名、大間々山岳会一名、太田山岳会二名、一般一名。

岩遊関係から岩遊一名、岩遊予備軍とも言えそうな沢やの卵さん四名の計十二名。岳連指導部より吉田直人副委員長(境町山の会)、久保田一美(太田山岳会)の総勢二十名。

前夜、奈良俣ダムゲート前のよく整備された駐車場に幕営した。翌朝の空模様は一面雲に覆われていて今にも泣き出しそうだが、気温はそんなに低くなさそう。

六時三十分、集合場所の空き地へ車で五分程下る。すでに何人か集まっていた。白馬町から来た若い女の子もいて沢の人氣に驚かされる。受付、支度を整えそこから更に乗り合いで川に沿って五分程走ると手小屋沢と湯の小屋沢の出合の手前に五台ほど駐車できるスペースがある。そこに駐車してフェンスの脇から踏み跡をたどって沢に入った。時折パラパラと降ったかと思うといつの間にか止んでしまうようなはつきりしない天

気のなか遊行がはじまった。ここから一三〇〇m位の距離にへつり、泳ぎ、シャワークライム、急流の徒渉など次から次へと出てきて非常に変化に富んでいる。

入渓してすぐやさしいへつりがあり、そこで「上の方に登り過ぎないように」、「水際にあるスタンスをよく見つけて」など丁寧な指導を受ける。浅瀬では、特に不安定な石に乘らないように、石に全体重をかけずに軽やかにと注意があつた。腰までの渡渉では、水の中をよく見るようにと言われていた。二度目のへつりは右岸で、水面から一五〇cm位の高さまでへつっていくと足元の岩が切れ落ちてくる。幅は五〇cm位だが少し高くなっている向こう側へ跨いで渡るのに木の枝が邪魔している。竹内さんが補助ロープを投げてくれた。皆へつる時には真剣な顔だが順番待ちをしている時に時々ドボンという音がする。音のする方を見ると、水面に出ている顔と出会ったりして楽しい。

二条一五mのヒロダイラ沢では二本のロープを張り、シャワークライミングの練習をした。何回も果敢にチャレンジする受講生もいて、楽しんでいるのが伝わってくる。地図にはない瀬もいっぱい出てくる。その中の一つに、瀬の真

ん中に右から左の岩角へ向かつて強い水流があり、真つ直ぐ対岸へ泳いで渡れない。こういう時は、一旦左の岩角へ向かつて泳ぎ、その岩角を足で大きく蹴つて一気に対岸へ渡るといふ方法を教えてもらう。又、泳ぎに自信のない人は無理に泳がないでロープを投げてもらうようにとの豊野さんからの指示もあり、泳ぎの苦手な私は勿論迷わずロープを投げてもらった。二条一〇m右逆くの字の滝は、左岸をへつりながら滝の中ほどまで上がると一mほどの幅がある急

流が右側からなだれ落ちている。この急流を渡って滑りやすいナメ床を三〜四m上がりきったところを左岸へ向かう。

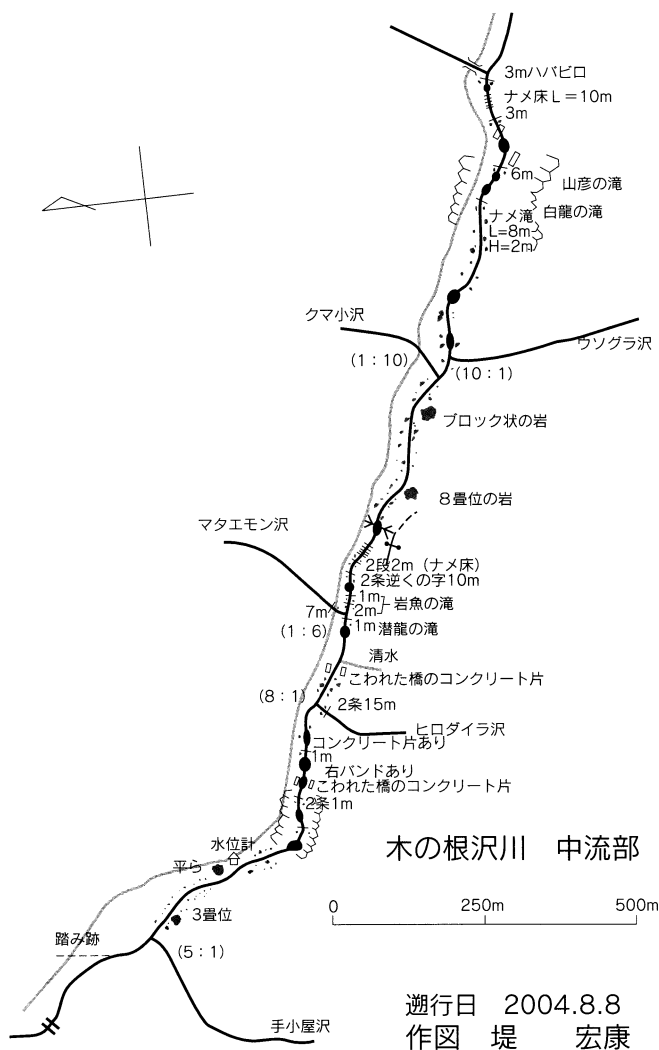
急流の先に豊野さんがいて、滝をまたいでナメ床側の岩に体を向けた途端ハーネスを掴んで補助をしてくれる。ナメ床にもロープがフィックスされ、上がりきった所から左岸に向けても張られた。これまでに出てきた何ヶ所かのへつりのフィックスもそうだが、非常に手際のいい講師陣の連係プレイは、さすが一年間に八ヶ月も沢に通う沢やさんだと思う。

湯の小屋沢川は広くなったり狭くなったり、水量もほどほどで、濃い緑と薄い緑のコントラストと木の葉を透けて届く光が水面でキラキラ光り美しい。昼食の時に焚き火をした。沢の魅力の一つは焚き火だ。焚き火を囲んでのおしゃべりは楽しい。時間を忘れてしまう。

「この先も楽しいよ」と豊野さんは言われたが、講習会はこので終了することになった。

この沢の最大の特徴は、沢の直ぐ上を道路が走っていて、直ぐに撤退できることだ。帰りは道路を歩いて車に戻り、また乗り合いで受付広場に戻った。

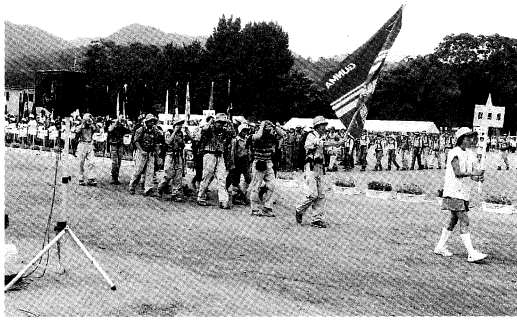
受講者の感想も楽しかったという方が多く、コンパクトに色々な内容を詰まったこの湯の小屋沢川を講習会場に選んだ講師陣の力量に敬意を表します。午後二時頃解散。



自校の山行と合宿とで多忙を極める時期でもあります。

七月下旬、補習や実習を終え、いよいよ待ちに待った夏山合宿を迎えます。最近の傾向としてはやはり北・南アルプスが圧倒的に多く、期間も三泊四日程度と短期間になり、嘗ての様に上越国境縦走に拘ったり、長大な山行に挑戦するといったアルピニズムは薄れつつあるようです。それでも夏山の魅力は絶大で、そこから得られる感動は、山の魅力に取り憑かれた「岳人」の「卵」を誕生させます。

八月、インターハイに、国体関東ブロック予選に、登山指導標設置のボランティア活動に、生涯忘れることのできない貴重な汗を流し、感動と充実感を体験する高校



生がいることをご存知でしょうか。

九月、三年生が引退し、一・二年生での活動が始まります。最近では登山だけでなく、溪流釣りやカヌーなどを楽しむ学校もあるようです。下旬の山田昇記念登山大会も恒例行事としてすっかり定着しました。

十月、県高校総体と並ぶもう一つの公式大会、集中登山大会（新人大会）が開催されます。今年度は長野の高妻山で開催する予定です。

十一月、山梨を含む一都七県が持ち回りで開催する関東大会に男子六校、女子二校が出場します。競技登山ではないこの大会は、まさに友情の輪を拡げる絶好の場を

提供しています。登山、それは高校生にとつてまさに教育の場でもあるのです。「百人の教師が束になつても山には勝てない」「山は偉大な教育者」、そんな会話が高体連登山部の顧問同士で交わされることが度々あります。

十二月から二月にかけて、積雪期のこの間でも毎年、十二・十五校が雪の上で活動しています。また、リーダー養成研修会ではスポーツクライミングにも取り組み、近い将来開催されるであろうコンペで、華麗なムーブを披露する高校生の姿が見られることでしょう。

三月、尾瀬富士見峠、ここで「リーダー冬季講習会」が三十年にもわたって続けられ、これまで



に約五千人の高校生たちが雪山を体験しています。「尾瀬からヒマラヤまで」、これも高体連登山部の活動の一環を表す言葉となっています。

山岳部の高校生たち、「山ふところに抱かれて」素晴らしい活動をしている彼らは、本来誰しもが持っているはずの若者の純朴さを失ってはいないのです。是非、是非、彼らに拍手とエールを送って下さい。





自然植物観察会開かれる

群馬岳連自然保護部 須 田 久 男

○会 場 沼田市玉原湿原

○開催日 平成16年8月1日(日)

午前9時 現地集合

午前9時30分 出発

午後2時30分 解散

○観察会コース

センターハウス→自然環境セン

ター→玉原湿原→玉原越え分岐→

三角点(長沢)→ブナ平→ブナ地

蔵→探鳥路→センターハウス

○参加者数 男性14名、女性13名

(全員県内在住者、年齢層50代→

70代、最年長者72歳男性)

○講 師 小林敏夫、濱田 誠、

日野弘雅、二川真士

○主 催 群馬県山岳連盟 自然

保護部

○観察会概要

現在の日本の植物は北方植物と

南方植物に分類され、分類方法と

しては、積雪量により50cm以上

(北方植物) 50cm以下(南方植物)

と分類している。湿原は三タイプ

有り、低層・中層・高層とに分か

れているとの説明の他、植物や昆

虫などについての説明も有りました。

植物については熊笹の分類や

ブナ木の生態などについて、昆虫

では蝶の生態などについて説明が

あり、野鳥の生態なども説明が有

りました。

○参加者のアンケートより

「植物や鳥・昆虫についてなど

くわしく説明して頂き、大変勉強

になりました。このような会を年

に二〜三回開いて頂けたらと思

います。」その他、同意見多数。

○反省・今後の課題

このような会を開催したのは初

めてという事もあり、不手際が

多々有りましたが、参加者からこ

のような会をもっと開いてほしい

という意見や、講師の方の説明が

分かりやすく勉強になったとの意

見を聞き、大変嬉しく思います。

今後、参加者の方々の意見や希望

を取り入れて行けたらと思います。

追記

今回の目的である、一般の方々

に自然の中を歩きながら、自然の

美しさ・植物や昆虫・野鳥の生態

などを一人でも多くの人に知って

頂き、楽しんでもらう事ができ、

大変嬉しく思います。今回の開催

にあたり、群馬テレビ様、上毛新

聞様、桐生タイムス様、利根沼田

自然を愛する会様にご協力を頂き

誠に有難うございました。



海外登山部長就任にあたり



群馬岳連海外登山部長

剣持 典之

この度の役員改選により海外登山研究会の委員長という大役を務めることになりました剣持です。

若輩ではありますが、会員の皆様、関係諸団体のご支援を仰ぎながら、群馬岳連の海外登山活動発展のために、微力ながら力を尽くすつもりであります。前任者の後藤さん同様、格別のご教示とお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、群馬岳連では来年六月、ヒマラヤ山脈の西の端、独り天空にそそり立つナンガ・パルバット（八、一二五〇）の登頂を目指して、その登山プロジェクトが開始されようとしています。

ナンガ・パルバットは、今から五十年以上も前、オーストリアの超人、ヘルマン・ブルルによって劇的な初登頂がなされた山としてよく知られています。彼はこの時ドイツ・オーストリア合同の登山隊に参加し、当時としては驚異的

おけるミヤマ山岳会の若きホープ三名の遭難死。ガッシャーブルムでの後藤さんの予期せぬ病変（障害を伴いながらも生還）、それと桐生山岳会によるチョモランマ遠征後に起きた、黒部川での大山さんの転落死亡事故。

いずれも私にとつて、今でも信じられないような出来事でありますが、気心の知れた岳友であり、先輩達であり、これからの活躍が期待されていたクライマーばかりだったので、本当に残念でなりません。特に後藤さんと大山さんの二人は、私の所属する境町山の会の大先輩でもあり、自ら海外登山を推進していた牽引車のような存在だっただけに、悔やまれてなりません。

それだけに、残された立場にある私としては、今後の海外登山がどうあるべきなのか、またどのようにに推し進めていったらよいのか、多くの人たちと議論を交わしながら、あるべき姿を求めていかなければならないと痛感しております。また、彼らが果たせなかったその夢を引き継ぎ、いつの日か必ずかなえてやりたい、という気持ちも私の中にあります。そのために、日々の登山活動をより充実したも

のしていかなければならないと改めて考え直すようになりました。私自身、海外登山についての活動や経験はまだ十分にあるとはいえず、これから多くのことについて学んでいかなければならないのですが、先輩方からご教示いただきながら技術の研鑽に努め、また若手を育て、更にレベルアップが図れるような研究会にしていきたいと考えます。どうか今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます、就任にあたっての挨拶と致します。

岳連トピックス

新島学園高校

全国高校総体

登山準優勝

平成十六年度全国高等学校総合体育大会登山（島根県三瓶山・琴引山・大万木山・毛無山域。八月二・六日開催）男子団体の部において、新島学園高等学校が第二位（得点八九・七）、女子団体の部では、高崎女子高等学校が第十四位（得点八七・八）と健闘した。優勝チームは、男子団体の部は、藤枝東高校（静岡）（得点八九・八）、

女子団体の部では、長崎北陽台高校（長崎）（得点九一・五）であった。

出場した監督・選手は次の通り。

総監督 川島 勉（館林）

新島学園高校

監督 黒澤達行

選手 櫻井郁也、吉井崇人、松田智也、清水瑛人

高崎女子高校

監督 悴田利行

選手 阿部由佳、白石 萌、高階美奈子、岩井真奈美

鏑木 毅選手

国際クライマソン16位

第十八回キナバル山国際クライマソン（マレーシア・キナバル山、十月三日開催）に出場した鏑木毅選手（群馬県庁）は、レース後半に左足打撲の負傷するも3時間7分35秒で十六位と健闘した。

掘込 悟選手

関東地区

スポーツクライミング

2位

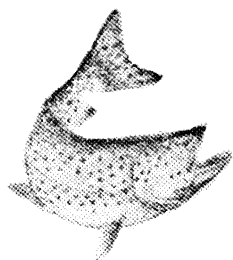
第六回関東地区スポーツクライミング競技会（山梨岳連主催、甲府市小瀬スポーツ公園クライミング場、十一月七日開催）に出場した堀込 悟選手（渋川工業）は、少年男子の部に第二位入賞を果たした。

味の店 ドライバーレストラン

一本松さかい

利根郡白沢村（国道120号線） TEL.0278-53-2053

片品川国際マス釣場



星 野 水 産

〒378-0013 沼田市新町230-1

TEL 0278-24-1398

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町1231 TEL・FAX 0278-23-6802

Annapurna

高崎八幡霊園 墓石指定店
観音山聖地霊園
墓地取扱店



高

橋

石

井

高崎市石原町1497 TEL (027) 323-8867
工場・高崎市八幡町1245-67 TEL (027) 343-0270

携帯 090-8725-8456

電話、弱電工事

プ モ リ 電 設

〒379-2232

伊勢崎市小泉町252

☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町1819-1

TEL 0270-21-8025

FAX 0270-21-8026

本店 (山の談話室 楼蘭)

伊勢崎市中心町18-8

TEL 0270-25-0272



萬屋建設グループ

歴史、信用、技術をもって、21世紀の人間と環境を考える。



総合建設業 萬屋建設株式会社

会 長 星 野 光

■本社 群馬県沼田市上原町1756-2 TEL 0278-23-4648(代) FAX 0278-24-3371
 ■支店 東京都豊島区東池袋4-2-7 TEL 03-3985-7631 FAX 03-3982-5964

群馬県公安委員会指定 (公認)

株式会社 沼田自動車教習所

群馬県沼田市横塚町1088-13 TEL 0278-24-4811 FAX 0278-23-7960

昭和シェル石油特約店 有限会社 丸萬石油

群馬県沼田市上原町1756
 TEL 0278-23-0018 ☎ 0120-41-0018

日本工業規格表示許可工場 建設生コン株式会社

本 社 沼田市上久屋2338-1 TEL 0278-24-3111
 大楊工場 利根郡利根村大字大楊187 TEL 0278-56-3682

総合建設業 株式会社 鈴木工業所

群馬県沼田市上久屋1162-5
 TEL 0278-22-2846 FAX 0278-23-6233

マンション 萬栄ビル株式会社

東京都豊島区東池袋4-2-7
 TEL 03-3971-3433 FAX 03-3982-5964